

人文社会科学研究科 博士前期課程 文化環境専攻

養成人材

人文学を中心とする諸研究分野における深く幅の広い知識と方法を修得し、今日の多様な文化と社会について理解するとともに、グローバルな視点から考察・分析する能力を備え、社会的応用力を身に付けた社会で活躍できる高度専門職業人の育成を教育研究上の目的とする。

学位授与の方針

人文学・社会科学の幅広い研究を基礎とし、知識基盤社会的知的担い手となる高度専門職業人、修士の学位を持つ社会人、日本・アジアの視点を軸にグローバルに活躍しうる人材を育成するため、所定の教育課程を修め、専攻ごとに求める以下の能力を身につけた者に修士の学位を授与する。

〈文化環境専攻〉

- (1) 人文学を中心とする諸研究分野における深く幅の広い知識と方法の修得
- (2) 今日の多様な文化と社会についての理解
- (3) グローバルな視点から考察・分析する能力
- (4) 社会的応用力

教育目標

- 1 人文社会科学における広い知見を修得する。
- 2 人文社会科学における基礎的な知識を修得する。
- 3 人文社会科学における基礎的な知識を習得し、それを応用・総合する能力を修得する。
- 4 人文社会科学における課題設定・解決能力、および独創的な思考力を獲得する。

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1,2	English Skills I	1.To understand the basic knowledge about the foundation of communication in English 2.To express own opinions at academic settings and to perform facilitation skill at group discussion 3.To perform their understanding on how to manage classrooms or small seminars in English	◎	○		
1,2	English Skills II	1.To understand essays as a part of academic writing that includes the knowledge about rhetorical terminologies and plagiarism 2.To understand different types of essays and its structures and functions 3.To perform your understanding by producing good essays, participating in discussion and making presentations	◎	○		
1,2	異文化コミュニケーションワークショップ	Students are expected to apply basic theories and concepts to hands-on intercultural activities	◎	○		
1,2	視覚文化と社会	見ることの役割を自覚し自らの研究に生かす	◎	○		
1,2	ジェンダー／セクシュアリティと社会	ジェンダー論、セクシュアリティ論がなぜ必要とされ、どのように発展してきたのか、90年代以降のクィア理論も射程に入れ、それらの理論とその社会的意義について理解できるようになる。  また、それらの理論を応用して、多くの要素が複雑に交差した実際の社会的現象（時事問題等）を分析し、課題を説明できるようになる。	◎	○		
1,2	文献資料調査実習 I	線装本（和装本、和本、漢籍）の書誌調査のスキルがある程度身につける。 更に進んで、その典籍のより深い探究が出来るようになる基礎知識を得る。	◎	○		
1,2	文献資料調査実習 II	線装本（和装本、和本、漢籍）の書誌調査のスキルがある程度身につける。 更に進んで、その典籍のより深い探究が出来るようになる基礎知識を得る。	◎	○		
1,2	English Presentation and Negotiation	This course is designed for students: 1. to understand what is needed for a better presentation/negotiation; 2. to understand the differences in persuasive communication style in Japanese and English; and 3. to get used to English communication.	◎	○		
1,2	日本語運用演習	・論文の書き方に関するスキルを身に付け、自分の研究テーマについて日本語で論文を書けるようになる。 ・自分の研究内容を他人に伝え、発表することができるようになる。		◎		
1	国際政治学研究基礎 I	国際政治学・国際関係論における基礎的理論の考察、ならびに国際政治学における基本的な研究方法の習得		◎		
1	国際政治学研究基礎 II	国際政治学・国際関係論における基礎的理論の考察、ならびに国際政治学における基本的な研究方法の習得		◎		
1	国際政治経済学研究基礎 I	国際政治経済学の視点からグローバル化する国際社会の現状と課題を的確に理解すること		◎		
1	国際政治経済学研究基礎 II	国際政治経済学の視点からグローバル化する国際社会の現状と課題を的確に理解すること		◎		
1	国際法学研究基礎 I	英語で書かれた高度な内容の文献を、時間を書ければ正確に読みこなせ、内容を説明できる。		◎		
1	国際法学研究基礎 II	英語で書かれた高度な内容の文献を、時間を書ければ正確に読みこなせ、内容を説明できる。		◎		
1	Principles of Economics for Developing Countries I	開発経済学に必要な基礎理論および分析手法を習得すると同時に、修士論文を書くのに役立つ知識を身につける。		◎		
1	Principles of Economics for Developing Countries II	開発経済学に必要な基礎理論および分析手法を習得すると同時に、修士論文を書くのに役立つ知識を身につける。		◎		

1	国際開発学研究基礎 I	・本授業によって、履修者は次のことを獲得するものと期待されています： 1. 開発途上国における公共政策の政策過程に関して、政治的文脈・制度というガバナンスの側面を中心に幅広い知識を得ることができる。 2. 開発のパフォーマンスと国家の間にどのような関係があるかを理解できる。 3. 開発と両立するような民主主義体制をいかに設計・構築するかを論じることができる。 4. 開発援助がガバナンス改善にどのような影響を及ぼしてきたかを把握できる。	◎			
1	国際開発学研究基礎 II	・本授業によって、履修者は次のことを獲得するものと期待されています： 1. 開発途上国における公共政策の政策過程に関して、政治的文脈・制度というガバナンスの側面を中心に深い知識を得ることができる。 2. 開発のパフォーマンスと国家の間にどのような関係があるかを理解できる。 3. 開発と両立するような民主主義体制をいかに設計・構築するかを論じることができる。 4. 開発援助がガバナンス改善にどのような影響を及ぼしてきたかを把握できる。	◎			
1	質的社会学研究法 I	エスノメソドロジーと会話分析の分析法を理解する。	◎			
1	質的社会学研究法 II	会話と相互行為のエスノメソドロジーの分析法を理解する。	◎			
1	社会問題論研究基礎 I	社会問題に関する文献を収集・読解し、適切に要約・報告する能力を身につけること、自身の研究計画について適切に報告できる能力を身につけることを目標とする。	◎			
1	社会問題論研究基礎 II	社会問題に関する文献を収集・読解し、適切に要約・報告する能力を身につけること、自身の研究計画について適切に報告できる能力を身につけることを目標とする。	◎			
1	市民社会論研究基礎 I	(1) 市民社会論やジェンダー論に学ぶ。 (2) 質的社会学の方法。特にエスノメソドロジーについて学ぶ。	◎			
1	市民社会論研究基礎 II	(1) 市民社会論やジェンダー論に学ぶ。(2) 質的社会学の方法、特にエスノメソドロジーについて学ぶ。	◎			
1	メディア研究法	広範な情報メディア研究の主要概念と発想、主な論点、基礎文献の知識を習得する。情報メディア研究の専門知識を高め、多角的視点から論点を検討する発想力を育む	◎			
1	メディアコミュニケーション研究基礎 I	社会的現象をメディアコミュニケーションの観点から捉え調査研究するために必要な知見や見方などの基本的素養を身につけることを目標とする。	◎			
1	メディアコミュニケーション研究基礎 II	社会的現象をメディアコミュニケーションの観点から捉え調査研究するために必要な知見や見方などの基本的素養を身につけることを目標とする。	◎			
1	社会人類学研究基礎 I	現在の社会人類学の基本的考え方を、基礎的な諸著作の読解を通じて理解する。	◎			
1	社会人類学研究基礎 II	現在の社会人類学の基本的考え方を、基礎的な諸著作の読解を通じて理解する。	◎			
1	文化人類学研究基礎 I	文化人類学の著作を読み検討することによって、自身の研究において基礎となる分析方法と理論について学ぶ	◎			
1	文化人類学研究基礎 II	文化人類学の著作を読み検討することによって、自身の研究において基礎となる分析方法と理論について学ぶ	◎			
1	地理情報システム研究基礎	地理学で論文を書く上で必要な地理情報の特質を理解した上、地理情報を適切に収集し、かつ分析、表現できるようにすることを目標とする。	◎			
1	芸術論研究基礎 I	デザイン史および視覚芸術に関する近年の研究成果を理解する。	◎			
1	芸術論研究基礎 II	西洋美術の基礎文献を講読し、担当箇所と各自のテーマに関連した発表を行う。 与えられた課題を踏まえつつ、個々の興味関心に基づいた発表を行う。	◎			
1	哲学研究基礎 I	時間とは何か、物や出来事が持続するとはいかなることか、過去や未来は実在するかといった時間についての形而上学の問題と、私たちは時間をいかにして知覚するかという時間意識の問題の関係について考える。現代の時間論についての見通しを得る。	◎			
1	哲学研究基礎 II	・推論、弁論、探求の論理に関して古代から近代までに確立・提唱された概念、方法が分かり、活用できるようになる。	◎			
1	論理哲学研究基礎 I	次の各項目を本授業科目の到達目標とします。 1) 古典命題論理のヒルベルトタイプの公理系に関するメタ論理的考察について理解する。 2) 自然演繹による命題論理の証明の技術を習得したうえで、「直観主義論理」の基本について理解する。 3) 「証明する」ということが論理哲学的にどのような意味を持っているかを理解する。	◎			
11	論理哲学研究基礎 II	次の各項目を本授業科目の到達目標とします。 1) 古典述語論理における日常語の記号化とタブローによる証明法とを習得する。 2) 完全性やコンパクト性など、古典述語論理に関するメタ論理の基本について理解する。 3) 古典述語論理の哲学的背景について理解する。	◎			

1	認知言語学基礎	認知言語学の一般理論と主として日本語を対象とした認知言語学の研究について知り、その知識を日本語教育やその他の学際的な研究に活かせるようにすること。				
1	日本史研究基礎 I	日本近代史に関する高度な研究発表が出来るようになる。	◎			
1	日本史研究基礎 II	日本近世史研究の基礎となる古典籍の取り扱い能力を身に付け、資料の内容を把握する能力(古文書判読力を含む)を錬成する。	◎			
1	東洋史研究基礎	中国近現代史・日中関係史に関する文献の読解能力および理解力を身につける。	◎			
1	西洋史研究基礎 I	近世ヨーロッパの欧文諸言語史料の読解ができるようになること。 近世ヨーロッパの歴史用語に習熟すること。	◎			
1	西洋史研究基礎 II	1. オーラル・ヒストリーの基本的な知識を得て、その特色を理解し、論述することができるようになります。 2. オーラル・ヒストリーの手法を用いた歴史研究論文や著書を読んで、実践的なオーラル・ヒストリーの到達点を理解し、論述することができるようになります。 3. 日英のオーラル・ヒストリーの方法論を比較・検討し、理解し、最終的にオーラル・ヒストリーの実践化が目標です。	◎			
1	考古学研究基礎 I	内容の理解	◎			
1	考古学研究基礎 II	弥生文化形成に関わる諸状況を理解する。	◎			
1	欧米文化研究基礎 I	20世紀のアメリカのファッション史や背景について英語で議論すること。	◎			
1	欧米文化研究基礎 III	ヨーロッパのファッションを知ること。	◎			
1	欧米文化研究基礎 IV	アメリカ史の専門的な視覚や理論を学ぶ。 アメリカ史学史に関する深い理解を得る。	◎			
1	欧米文学研究基礎 I	文学作品について論文を執筆する能力を向上させる。	◎			
1	欧米文学研究基礎 II	20世紀の小説の発展について基本的な知識を持ち、それに基づいて作品分析を行えるようになること	◎			
1	欧米文学研究基礎 III	・文学研究の手法についての理解を読みの実践を通じて深め、自らも解釈をある程度展開できるようになる	◎			
1	欧米文学研究基礎 IV	文学テキストについて、とくに「編集」の観点から考察しながら、読解の方法を学びます。	◎			
1	欧米言語学研究基礎	Examine theories and methods related to the teaching of English as a second language.	◎			
1	Urban Geography of Japan	This course has three major objectives: 1) Providing basic knowledge about the history of cities and their development in Japan. 2) Learning about factors that drive urbanization and the different forms of cities they create. 3) Learning about the major characteristics of Japanese cities.	◎			
1	Regional Geography of Japan	The major objective of this course is to become familiar with and to deepen one's knowledge about regional differences in Japan.	◎			
1.2	ミュージアム・インターンシップ I	美術館の担当学芸員の指導のもと、美術館の実際の業務に参加し、現場での諸問題に対応する実践力を養うとともに、鑑賞指導や美術館の積極的活用など、芸術文化施設の現代的役割について学ぶ。	◎	○		
1.2	ミュージアム・インターンシップ II	美術館の担当学芸員の指導のもと、美術館の実際の業務に参加し、現場での諸問題に対応する実践力を養うとともに、鑑賞指導や美術館の積極的活用など、芸術文化施設の現代的役割について学ぶ。	◎	○		
1.2	シアター・インターンシップ	インターンシップの現場で、「文化」が社会で「生産・流通・消費」されていくプロセスの実務を体験し、文化研究のための理解を多面化し深化させることが目的となります。	◎	○		
1.2	埋蔵文化財インターンシップ	考古学の専門技術を身につける	◎	○		
1.2	国際協力インターンシップ	国際開発・国際協力分野の諸問題を、実際のJICAの事務所での仕事を通じて理解する。	◎	○		
1.2	特別インターンシップ I	人文社会科学における基礎的な知識を習得し、それを応用・総合する能力を修得する。 人文社会科学における課題設定・解決能力、および独創的な思考力を獲得する。	◎	○		
1.2	特別インターンシップ II	人文社会科学における基礎的な知識を習得し、それを応用・総合する能力を修得する。 人文社会科学における課題設定・解決能力、および独創的な思考力を獲得する。	◎	○		
1.2	地域振興論	埼玉県の担当者から直接話を聞き、地域振興の具体的な課題について知る。	◎	○		
1.2	ミュージアム・エデュケーション	博物館(おもに美術館)教育活動の事例を知り、プログラムを作成することを通して、教育普及マインドを持った学芸員となる資質を養う。	◎	○		
1.2	アーツと社会	・彩の国さいたま芸術劇場、富士見市の文化会館キラリ☆ふじみ、草加市文化会館など、埼玉県下の公立の芸術文化事業や施設の運営について、その概略を理解し、説明できること。 ・公的な芸術文化事業が社会のなかで果たしている役割の現状と課題について、具体的な事例をふまえた独自の考察ができること。	◎	○		
1.2	埋蔵文化財調査実習	埋蔵文化財インターンシップに対応できる技術を身につける。 さらに、製図などの整理作業の技術を身につける	◎	○		
1.2	開発調査法 I	PCMの基本的な手法を習得する。	◎	○		
1.2	開発調査法 II	PCMの基本的な手法を習得する。	◎	○		

1.2	国際協力研究 I	国際開発・国際協力分野の基本的な理論や知識、最新の主要な課題を学ぶ。			◎	○
1.2	国際協力研究 II	国際開発・国際協力分野の最近のトレンドや最新の知見を学ぶ。			◎	○
1.2	国際協力研究 III	国際開発・国際協力分野の基本的な理論や知識、最新の主要な課題を学ぶ。			◎	○
1.2	国際協力研究 IV	国際開発・国際協力分野の基本的な理論や知識、最新の主要な課題を学ぶ。			◎	○
1.2	国際政治学 I	国際政治理論および国際関係理論に関するより高度な知識を習得すると同時に、それらの理論を用いた国際政治現象の事例分析について学ぶ			◎	○
1.2	国際政治学 II	国際政治理論および国際関係理論に関するより高度な知識を習得すると同時に、それらの理論の背景にあるアメリカの力を背景に構築されてきた世界秩序の動態を理論的・実証的な観点から考察する。			◎	○
1.2	国際法学 I	英語で書かれた高度な内容の文献を、時間を書ければ正確に読みこなせ、内容を説明できる。			◎	○
1.2	国際法学 II	英語で書かれた高度な内容の文献を、時間を書ければ正確に読みこなせ、内容を説明できる。			◎	○
1.2	国際政治経済学 I	国際政治経済学の視点からグローバル化する国際社会の現状と課題を的確に理解すること			◎	○
1.2	国際政治経済学 II	国際政治経済学の視点からグローバル化する国際社会の現状と課題を的確に理解すること			◎	○
1.2	Economics of Development and Public Issues I	開発経済学に必要な基礎理論および分析手法を習得すると同時に、修士論文を書くのに役立つ知識を身につける。			◎	○
1.2	Economics of Development and Public Issues II	開発経済学に必要な基礎理論および分析手法を習得すると同時に、修士論文を書くのに役立つ知識を身につける。			◎	○
1.2	Governance and Development	・Through the combination of various teaching formats of systematically organised lectures, discussions and presentations, students are expected to grasp broad outline and issues of governance and development. ・Through the understanding theoretical aspects and policy dimensions of governance and development, students are expected to broaden their perspectives on governance, politics and development. Particularly, students are expected to: 1. understand potential relationship between governance and development performance; 2. critically grasp key issues such as good governance including bureaucracy, democracy, participation, and civil society; and 3. develop their own constructive views how governance in developing countries could promote their development.			◎	○
1.2	Governance and Development in Asia and Africa	・Through the analysis of several cases, students are expected to broaden their perspectives on governance, politics and development. Particularly, students are expected to: 1. understand potential relationship between diverse governance and diverse economic development performance; 2. critically grasp key issues such as good governance, democracy and democratisation, authoritarianism, corruption, neo-patrimonialism, and developmental states; 3. develop your own constructive views how politics and governance in other developing countries could promote their development; and 4. ultimately output effective presentations and essays on governance and development.			◎	○
1.2	エスノメソドロジー I	会話と相互行為のエスノメソドロジーの分析法を理解する。			◎	○
1.2	エスノメソドロジー II	会話と相互行為のエスノメソドロジーの分析法を理解する。			◎	○
1.2	社会問題の社会学 I	社会問題の分析法に関する文献を読解し、自らの関心に沿って経験的なデータを社会的に分析する能力を身につけることを目標とする。			◎	○
1.2	社会問題の社会学 II	社会問題の分析法に関する文献を読解し、自らの関心に沿って経験的なデータを社会的に分析する能力を身につけることを目標とする。			◎	○
1.2	社会運動論 I	(1) 社会運動論の論点と見取り図について基本的な理解を得る (2) 近年に世界各地で発生した社会運動に関する最新の研究動向を学ぶことを通じて、今日の社会現象にたいする社会的アプローチについて学ぶ			◎	○
1.2	社会運動論 II	(1) 社会運動論の論点と見取り図について基本的な理解をえる (2) 近年に世界各地で発生した社会運動に関する最新の研究動向を学ぶことを通じて、今日の社会現象に対する社会的アプローチについて学ぶ。			◎	○
1.2	異文化間教育論	異文化間適応の問題について知り、解決方について考える			◎	○
1.2	メディアシステム論 I	メディアを形作るコミュニケーションシステムの社会学的研究に着手するために必要な知見や見方などの基本的素養を身につけることを目標とする。			◎	○

1.2	メディアシステム論Ⅱ	メディアを形作るコミュニケーションシステムの社会学的研究に着手するために必要な知見や見方などの基本的素養を身につけることを目標とする。			◎	○
1.2	メディア戦略論Ⅰ	国際社会で広く使われている「公共（社会）マーケティング」、その一分野である政治マーケティング、および公共マーケティングの一つの段階である「メディア戦略」について、理論的枠組み・最新事例・社会に対する機能と意義に関する知識習得			◎	○
1.2	メディア戦略論Ⅱ	①「情報メディア」研究分野の特定領域としての「広報学」「ジャーナリズム」の最新動向とその背景や意義について、専門知識を習得する ②自ら最新情報を収集し、調査分析を通じて得られる高度な専門知識の成果を社会に向けて効果的に発信する発信力・技能を育む			◎	○
1.2	メディア戦略論Ⅲ	①「情報メディア」研究分野の特定領域としての「広報学」「ジャーナリズム」の最新動向とその背景や意義について、専門知識を習得する ②自ら最新情報を収集し、調査分析を通じて得られる高度な専門知識の成果を社会に向けて効果的に発信する発信力・技能を育む			◎	○
1.2	メディア戦略論Ⅳ	①「情報メディア」研究分野の特定領域としての「広報学」「ジャーナリズム」の最新動向とその背景や意義について、専門知識を習得する ②自ら最新情報を収集し、調査分析を通じて得られる高度な専門知識の成果を社会に向けて効果的に発信する発信力・技能を育む			◎	○
1.2	文化人類学Ⅰ	モノグラフおよびそれに類する資料（民族誌、調査報告書など）から、自身の研究に役立つ資料を抽出、吟味、整理、分析する方法を習得する。			◎	○
1.2	文化人類学Ⅱ	モノグラフおよびそれに類する資料（民族誌、調査報告書など）から、自身の研究に役立つ資料を抽出、吟味、整理、分析する方法を習得する。			◎	○
1.2	社会人類学Ⅰ	文化人類学の諸概念を使って現代社会の諸現象を分析を出来るようになる。			◎	○
1.2	社会人類学Ⅱ	文化人類学の諸概念を使って現代社会の諸現象を分析を出来るようになる。			◎	○
1.2	Population Change and Migration in Asia	Understanding various international migration to Japan and their backgrounds			◎	○
1.2	都市社会地理学研究	都市社会地理学への理解を深め、その知識を自らの修士論文に活用する。			◎	○
1.2	地理学研究Ⅰ	地理学で修士論文を書くために必要なことを学ぶ			◎	○
1.2	地理学研究Ⅱ	地理学分野で修士論文を作成する学生が必要な知識・手法を獲得し、自らの作業に活用する。			◎	○
1.2	日本地誌研究Ⅰ	日本の都市の発展について基本的な知識を身につける			◎	○
1.2	日本地誌研究Ⅱ	日本の都市の発展について基本的な知識を身につける			◎	○
1.2	農村地理学研究	地理学で修士論文を書くにあたり、人文地理学および農村地理学の知見から自らの地理学研究への応用を身に着けること			◎	○
1.2	Colloquium in Social Geography I	This course has three major objectives: 1) Learning about the characteristics of inner city areas in Japan. 2) Understanding the history and recent changes of inner city areas in Japan. 3) Becoming familiar with the academic discourse about inner city areas, in reference to Japan.			◎	○
1.2	社会地理学演習Ⅱ	本授業は主に3つの目標がある。 ①日本のインナーシティの特徴について勉強すること。 ②日本のインナーシティの歴史と最近の動きについて勉強すること。 ③日本のインナーシティに関するアカデミックな議論を勉強すること。			◎	○
1.2	ヨーロッパ地誌	本授業の目的は3つである ①ヨーロッパの都市の歴史とその発展の基本的な知識を身に付けること ②都市化を促進する原因とそれらが生み出す様々な都市の類型を学ぶこと ③ヨーロッパの都市の主な特徴を学ぶこと			◎	○
1.2	The Japanese Welfare State	This course has three major objectives: 1) Learning about homelessness and homeless policies in Japan. 2) Understanding changes the Japanese welfare state underwent through the topic of homelessness. 3) Learning about different approaches to this topic in the academic literature.			◎	○
1.2	Seminar in Contemporary Japanese Social Theory I	This course has three major objectives: 1) Learning about the development of housing in postwar Japan 2) Learning about cities in postwar Japan 3) Deepening of research and presentation skills			◎	○
1.2	Seminar in Contemporary Japanese Social Theory II	This course has three major objectives: 1) Learning about housing in post-growth Japan 2) Learning about cities in post-growth Japan 3) Deepening of research and presentation skills			◎	○
1.2	人間論Ⅰ	・人文科学における構造主義の考え方の基本を理解する。 ・物語の構造分析というジャンルに関する正確な理解を得、運用できるようになる。			◎	

1.2	人間論Ⅱ	・カントからドイツ観念論への流れの中で重要となる基本概念・基本問題を理解し、議論できるようになる。 ・ショーペンハウアーの哲学を検討することを通して、生命について考えるための視点を獲得する。			◎	
1.2	人間論Ⅲ	カントと批判哲学の基本的な考え方について深い理解を得る。 哲学的なテーマを平易な言葉で議論し、文章にまとめられるようになる。			◎	○
1.2	人間論Ⅳ	・実存哲学の基本的な考え方が分かるようになる。 ・キリスト教についての理解が深まる。 ・喜劇性・悲劇性に対する実存哲学的な知見を得る。			◎	○
1.2	思想史Ⅰ	自由意志を巡るさまざまな論文を読み、自由意志問題についての見取り図を得る。			◎	○
1.2	思想史Ⅱ	自由意志や時間、意識など時間の哲学と心の哲学に関する論文を読み、理解を深める。			◎	○
1.2	思想史Ⅲ	時間を巡るさまざまな論文を読み、時間の哲学についての見取り図を得る。			◎	○
1.2	思想史Ⅳ	自由意志や時間、意識など時間の哲学と心の哲学に関する論文を読み、理解を深める。			◎	○
1.2	現代哲学Ⅰ	次の各項目を本授業科目の到達目標とします。 1) 哲学的時間論に関する論争点を理解する。 2) 哲学的時間論に関する現代の代表的著作を的確に読解する。 3) 哲学的時間論に関する問題について議論する能力を獲得する。			◎	○
1.2	現代哲学Ⅱ	次の各項目を本授業科目の到達目標とします。 1) 哲学的時間論に関する論争点を理解する。 2) 哲学的時間論に関する現代の代表的著作を的確に読解する。 3) 哲学的時間論に関する問題について議論する能力を獲得する。			◎	○
1.2	現代哲学Ⅲ	次の各項目を本授業科目の到達目標とします。 1) 哲学的時間論に関する論争点を理解する。 2) 哲学的時間論に関する現代の代表的著作を的確に読解する。 3) 哲学的時間論に関する問題について議論する能力を獲得する。			◎	○
1.2	現代哲学Ⅳ	次の各項目を本授業科目の到達目標とします。 1) 哲学的時間論に関する論争点を理解する。 2) 哲学的時間論に関する現代の代表的著作を的確に読解する。 3) 哲学的時間論に関する問題について議論する能力を獲得する。			◎	○
1.2	デザイン史Ⅰ	デザイン史および視覚芸術に関する近年の研究成果を学ぶ。			◎	○
1.2	デザイン史Ⅱ	デザイン史および視覚芸術に関する近年の研究成果を学ぶ。			◎	○
1.2	デザイン史Ⅲ	視覚芸術に関する理論を理解する。			◎	○
1.2	デザイン史Ⅳ	視覚芸術に関する理論を理解する。			◎	○
1.2	比較芸術思想Ⅰ	英文のテキストの講読を通して、現代アートのコンテキストやその主要な問題点についての理解を深める。			◎	○
1.2	比較芸術思想Ⅱ	西洋近代型「芸術」から逸脱するオルタナティブな実践およびその理論的根拠・文脈について学び、議論することで、芸術についての多様な見方を理解する。			◎	○
1.2	比較芸術思想Ⅲ	西洋近代型「芸術」から逸脱するオルタナティブな実践およびその理論的根拠・文脈について学び、議論することで、芸術についての多様な見方を理解する。			◎	○
1.2	比較芸術思想Ⅳ	西洋近代型「芸術」から逸脱するオルタナティブな実践およびその理論的根拠・文脈について学び、議論する			◎	○
1.2	美術史Ⅰ	修士論文の執筆に向けて、各自のテーマに関連した発表を行う。 各々が決めた課題について、適切な参考文献を集め、内容を理解し、まとめて発表すると共に、それぞれの問題意識を持って自分なりの結論をまとめることを目指す。			◎	○
1.2	美術史Ⅱ	西洋美術の基礎文献を講読し、担当箇所と各自のテーマに関連した発表を行う。			◎	○
1.2	美術史Ⅲ	西洋美術の基礎文献を講読し、担当箇所と各自のテーマに関連した発表を行う。 文献をまとめ、自ら見つけ出した課題と併せて考察することを目指す。			◎	○
1.2	美術史Ⅳ	修士論文の執筆に向けて、各自のテーマに関連した発表を行う。 各々が決めた課題について、適切な参考文献を集め、内容を理解し、まとめて発表すると共に、それぞれの問題意識を持って自分なりの結論をまとめることを目指す。			◎	○
1.2	Contemporary Art and Media in Australia and Asia I	Exposure to art concepts and art works from diverse regions of Asia, Australia and Oceania			◎	○
1.2	Contemporary Art and Media in Australia and Asia II	Exposure to art concepts and art works from diverse regions of Asia and Australia			◎	○
1.2	Contemporary Art and Media in Australia and Asia III	Exposure to art concepts and art works from diverse regions of Asia and Australia .			◎	○
1.2	日本社会史Ⅰ	日本近代史に関する高度な研究発表が出来るようになる。			◎	○

1, 2	日本社会史Ⅱ	日本近代史に関する高度な研究発表が出来るようになる。			◎	○
1, 2	日本社会史Ⅲ	日本近代史に関する高度な研究発表が出来るようになる。			◎	○
1, 2	日本近世史Ⅰ	近年の研究動向を踏まえ、一次史料を読解した独自性の高い修士論文構成力を錬磨する。			◎	○
1, 2	日本近世史Ⅱ	近年の研究動向を踏まえ、一次史料を読解した独自性の高い修士論文構成力を錬磨する。			◎	○
1, 2	日本近世史Ⅲ	一次史料を読解する高い能力を身につけ、それを踏まえた独自性の高い修士論文構成力を錬磨する。			◎	○
1, 2	日本近代史Ⅰ	本授業は日本近代史に関する古典的な研究書や話題作を読みながら、日本近代史の学問的展開を考察していくことを目標とする。それぞれの歴史家の問題意識にどのような思想があり、彼らは何を調べ、何の史料を使い、どのような分析方法に基づいて歴史を書いてきたのか。そしてどう議論や論争が起こってきたのか。これらの課題を通して院生の日本近代史の知識を深め、歴史研究者としての基礎知識と分析力を高めることを目指す。			◎	○
1, 2	日本近代史Ⅱ	この授業は昭和初期政治思想史における様々な問題を一次史料によって検討することを目標とする。履修者はこの経験によって歴史研究者として分析力を高め、修士論文の研究をよりできることが期待できる。			◎	○
1, 2	Colloquium in Pre-modern Japanese History	A principal objective of the course is to teach students to think critically for themselves about the relationships between the past and the present, to learn to ask questions of the past that enable them to understand the present and mold the future, and to become attuned to both the limitations and possibilities of change. The course seeks to acquaint students with the ways in which past societies and peoples have defined the relationships between community and individual needs and goals, and between ethical norms and decision-making.  In general students will be expected to:  * read a wide range of secondary sources critically. * polish skills in critical thinking, including the ability to recognize the difference between opinion and evidence, and the ability to evaluate—and support or refute—arguments effectively. * write stylistically appropriate and mature papers and essays using processes that include discovering ideas and evidence, organizing that material, and revising, editing, and polishing the finished papers.			◎	
1, 2	Seminar in Pre-modern Japanese History	A principal objective of the course is to teach students to think critically for themselves about the relationships between the past and the present, to learn to ask questions of the past that enable them to understand the present and mold the future, and to become attuned to both the limitations and possibilities of change. The course seeks to acquaint students with the ways in which past societies and peoples have defined the relationships between community and individual needs and goals, and between ethical norms and decision-making.  In general students will be expected to:  * Identify and read a wide range of primary and secondary sources critically.  * Polish skills in critical thinking, including the ability to recognize the difference between opinion and evidence, and the ability to evaluate—and support or refute—arguments effectively.  * Write stylistically appropriate and mature papers and essays using processes that include discovering ideas and evidence, organizing that material, and revising, editing, and polishing the finished papers.			◎	○

1.2	Seminar in Modern Japanese History	This course will take the form of a directed readings seminar and thereby fulfill its first purpose of exposing students to many of the texts and issues that one should know about in order to teach modern Japanese history or to embark on independent research in the field. The second purpose of this course will be to place these works in historiographical context, comprehending the various perspectives individual historians have brought to their work and how their efforts relate to the larger field of modern Japanese historical studies.					
1.2	アジア近現代史Ⅰ	中国近現代史を題材に、修士論文を書くための基礎的な知識と能力を身につける。			◎		
1.2	アジア近現代史Ⅱ	中国近現代史・日中関係史に関する文献の読解能力および理解力を身につける。			◎	○	
1.2	アジア近現代史Ⅲ	中国近現代史を題材に、修士論文を書くための基礎的な知識と能力を身につける。			◎	○	
1.2	ヨーロッパ社会史Ⅰ	それぞれの受講生が、西洋史の研究において、探求したい内容にもっとも適切な「ヨーロッパ諸言語史料」を選択する眼力、史料を読み解く能力、論証したい歴史を「諸言語史料」を用いて「再構成」する能力、といった修士論文を執筆するうえで必要な「史料読解」の技法を、総合的に身につけることをめざします。			◎	○	
1.2	ヨーロッパ社会史Ⅱ	それぞれの受講生が、西洋史（前近代およびフランス）の研究において、探求したい内容にもっとも適切な「史料」を選択する眼力、史料を読み解く能力、論証したい歴史を「史料」を用いて「再構成」する能力、といった修士論文を執筆するうえで必要な「史料読解」の技法を総合的に身につけることをめざします。			◎	○	
1.2	ヨーロッパ社会史Ⅲ	それぞれの受講生が、西洋史の研究において、探求したい内容にもっとも適切な「ヨーロッパ諸言語史料」を選択する眼力、史料を読み解く能力、論証したい歴史を「諸言語史料」を用いて「再構成」する能力、といった修士論文を執筆するうえで必要な「史料読解」の技法を、総合的に身につけることをめざします。			◎	○	
1.2	ヨーロッパ社会史Ⅳ	それぞれの受講生が、西洋史（前近代およびフランス）の研究において、探求したい内容にもっとも適切な「史料」を選択する眼力、史料を読み解く能力、論証したい歴史を「史料」を用いて「再構成」する能力、といった修士論文を執筆するうえで必要な「史料読解」の技法を総合的に身につけることをめざします。			◎	○	
1.2	ヨーロッパ近現代史Ⅰ	オーラルヒストリーの特色を理解する。オーラルヒストリーに関する論文を読み理解する。日英のオーラルヒストリーの違いを理解する。			◎	○	
1.2	ヨーロッパ近現代史Ⅱ	19世紀に活躍したウィリアム・モリスの思想と実践行動に焦点を当てる手法からその時代を多角的に理解し、ヨーロッパ近現代史の文化や価値観の専門的知識を習得し、同時にグローバル化が進む現代社会の多様な文化や価値観を理解する専門的知識を習得します。さらに、19世紀のモリスの思想と実践行動から得た知識から21世紀に生きる私たちが直面する諸問題を解決する能力を育むことを最終的な到達目標とします。			◎	○	
1.2	ヨーロッパ近現代史Ⅲ	1. 20世紀ヨーロッパのセクシュアリティの歴史について、概要を述べるができること。 2. 自らが関心を持つ特定のトピックについて、一次史料にもとづいた論述が展開できること。			◎	○	
1.2	埋蔵文化財調査論Ⅰ	青銅器時代の重要性について理解する			◎	○	
1.2	埋蔵文化財調査論Ⅱ	弥生文化形成に関わる諸状況を理解する。			◎	○	
1.2	イギリス文学Ⅰ	小説を分析的に読む能力を深める。			◎	○	
1.2	イギリス文学Ⅱ	小説を学術的に分析・検討する能力を向上させる			◎	○	
1.2	イギリス文学Ⅲ	小説を学術的に分析・検討する能力を向上させる。			◎	○	
1.2	言語習得論Ⅰ	Examine theories and methods related to the teaching of English as a second language.			◎	○	
1.2	言語習得論Ⅱ	To foster an understanding of first and second language acquisition.			◎	○	
1.2	アメリカ文化論Ⅰ	アメリカ史の専門的な視覚や理論を学ぶ。 アメリカ史学史に関する深い理解を得る。			◎	○	
1.2	アメリカ文化論Ⅱ	アメリカ史学史に関する著書／論文を読み、論点を的確に把握し、議論できるようになること			◎	○	
1.2	多文化のアメリカⅠ	論文を読み、論点を把握し、議論できるようになる。様々な文化的背景を持つ人々で構成されるアメリカの社会や文化の具体的な事例を考察することで、アメリカにおける多様性の形成過程への理解を深める。様々なディシプリンの文献を読むことで、視覚資料分析やフィールドワーク等の方法論について学ぶ。			◎	○	
1.2	多文化のアメリカⅡ	論文を読み、論点を把握し、議論できるようになる。様々な文化的背景を持つ人々で構成されるアメリカの社会や文化の具体的な事例を考察することで、アメリカにおける多様性の形成過程への理解を深める。様々なディシプリンの文献を読むことで、視覚資料分析やフィールドワーク等の方法論について学ぶ。			◎	○	
1.2	ヨーロッパ文化構造論Ⅰ	庭園文化という観点からヨーロッパ近代文化の基層に迫ることによって、ヨーロッパの歴史や社会構造についての理解を深めることを到達目標とします。			◎	○	
1.2	ヨーロッパ文化構造論Ⅱ	モニュメントという観点からヨーロッパ近代文化の基層に迫ることによって、ヨーロッパの歴史や社会構造についての理解を深めます。			◎	○	



1.2	ドイツ文学Ⅰ	文学テキストの精読が出来るようになる。			◎	○
1.2	ドイツ文学Ⅱ	文学・芸術についての研究を進めていくうえで必要なドイツ語読解能力を身につけること			◎	○
1.2	ロシア文学Ⅰ	ロシア文学に関する専門的知識の獲得を目標とする。			◎	○
1.2	ロシア文学Ⅱ	20世紀の小説の発展について基本的な知識を持ち、それに基づいて作品分析を行えるようになること			◎	○
1.2	文学理論Ⅰ	比喩に関する基本的な知識を学ぶとともに、分析の応用力を養う。			◎	○
1.2	文学理論Ⅱ	文学研究に関する基本的知識・分析力を身につける。			◎	○
1.2	編集文献学Ⅰ	編集文献学についての基礎知識を身につける			◎	○
1.2	編集文献学Ⅱ	編集文献学についての基礎知識を身につける			◎	○
1.2	比較文化論	Discussing and analyzing the Influence of Japanese art and style on Western Culture			◎	○
1.2	Cultural Studies of Modern Japanese-European Relations	文明開化からの100年 ― 日独の美術的な交流について英語で議論すること。			◎	○
1.2	アメリカ文学Ⅰ	・マイノリティ作家の文学の特性のいくつかを、自分の論点で説明することができる。 ・文化的な視点から、具体的な文学作品の主題や表現を、テーマをたてて分析することができる。 ・考察した内容を20分程度のアカデミック・プレゼンテーションにまとめることができる。			◎	○
1.2	アメリカ文学Ⅱ	・マイノリティ作家の文学の特性のいくつかを、自分の論点で説明することができる。 ・文化的な視点から、具体的な文学作品の主題や表現を、テーマをたてて分析することができる。 ・考察した内容を20分程度のアカデミック・プレゼンテーションにまとめることができる。			◎	○
1	演習Ⅰ	基本的な研究姿勢を学ぶ			○	◎
1	演習Ⅱ	基本的な研究姿勢を学ぶ			○	◎
2	演習Ⅲ	基本的な研究姿勢を学ぶ			○	◎
2	演習Ⅳ	基本的な研究姿勢を学ぶ			○	◎
2	演習Ⅴ	基本的な研究姿勢を学ぶ			○	◎
2	演習Ⅵ	基本的な研究姿勢を学ぶ			○	◎